



糖尿病と上手にお付き合いするために

新しい糖尿病治療薬・

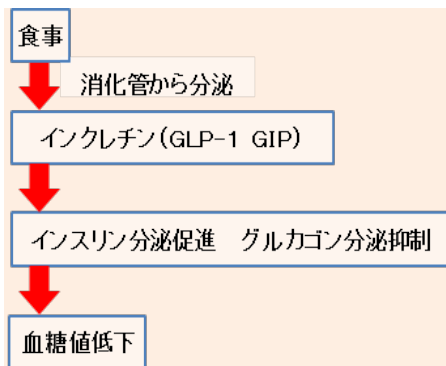
インクレチン関連製剤について

新しい糖尿病のお薬、インクレチン関連薬が世に出始めてからすでに2年。良い評価が報告されています。

1. インクレチンとは

インクレチンとは消化管ホルモンの一種で、食事を摂取し血糖が上昇することで小腸で産生され、すい臓からのインスリン分泌を増加させ、一方で、インスリンとは反対に血糖を上昇させる働きをもつグルカゴン分泌を抑える作用があります。これらの作用は血糖値が上昇しているときだけに発揮され、血糖値が低い時には働かないことが大きな特徴です。

インクレチンには GLP-1 と GIP の 2種類があります。



2. インクレチンの種類と特徴

インクレチン関連製剤にはDPP-4阻害薬とGLP-1受容体作用薬の2種類があります。

①DPP-4阻害薬(飲み薬)

GIP、GLP は DPP-4という分解酵素により大部分が速やかに分解されるので、体内で作用を失ってしまいます。この分解酵素の作用を妨げることで、インクレチンが分解されないようにし、働きを強めるタイプのお薬です。内服薬で、1日1~2回内服するタイプのお薬です。

②GLP-1受容体作用薬(注射薬)

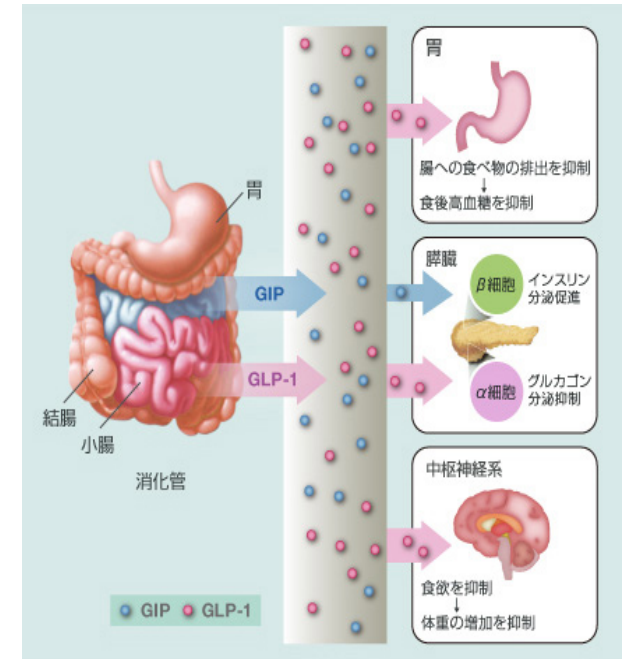
GLP-1は膵臓からのインスリン分泌を増加させ、グルカゴン放出を抑制する作用があります。更に胃に働きかけ腸への食物の排出を抑制し食後高血糖を抑制する作用や、脳に働きかけ食欲を抑制し体重の増加を抑制する作用があり、糖尿病治療において肥満解消⇒インスリン抵抗性の改善⇒血糖値の低下も期待されます。1日1~2回注射する薬剤で、注射の仕方はインスリン製剤とほぼ同じです。

3. 従来のお薬との違い

従来のSU剤に代表される糖尿病のお薬との大きな違いは、食事によって血糖値が上昇した時に働くタイプのお薬であることです。このため、従来の糖尿病のお薬より低血糖を起こしにくいというメリットをもっています。血糖改善効果は注射薬のほうが大きく、また肥満症で悩んでいる糖尿病患者さんにもよい適応になります。また、手軽に使用でき、様々なタイプの糖尿病薬と一緒に使えるという点では内服薬のほうが勝ります。どちらの

薬も、早期の食後高血糖の時期に使用すると、その利点が十分に発揮でき、1剤だけでコントロール良好となる場合がしばしば見られます。しかし、他の薬との組み合わせでも、良い効果が期待できます。

GIP、GLP-1の作用



DPP-4阻害薬とGLP-1作動薬の作用の違い

	DPP-4 阻害薬	GLP-1 作動薬
インスリン分泌	+	++
グルカゴン抑制	+	++
ベータ細胞保護	+?	+
肥満改善効果	-	+

薬剤科 玉木 内科 柳澤